夕刊
磐城時報
五日發行

福島縣平市■■町十四
編輯兼發行
印刷人　岡田弘成
福島縣平市■■町十四
印刷所　磐城時報社
福島縣平市紺屋町十四
發行所　磐城時報社
一部金貳錢　一ヶ月金卅錢
廣告料一行十四字詰五十錢
日刊（日曜祝祭日）翌日休刊

最後の勝利は經濟戰
十五日から經濟戰强調週間
平市の實施方針大体きまる

今次支那事變第二年目の歳末を迎へ、國民精神の作興を圖ると同時に經濟戰を强調すべく、十五日から一週間〝戰時歳末經濟戰强調週間〟と定め、國民に經濟思想の普及徹底を期することに成つた、平市では近く振興委員會を招集し、週間中の實施要項を決定するが

イ、生活刷新、國民生活の確立を目標に年末年始の虚禮を廢止すること

ロ、物資の節約、國防資材の確保を期し、生産力の擴充と輸出の振興を圖り、物價騰貴の抑制等から節約の實を擧げること

ハ、貯蓄の實行、貯金報國の意義を徹底せしめ、特に貯蓄組合の整備に努めること

右三項に亘る縣の通牒に基き平市では物資愛護精神を昂揚し、以て價格料金の引上げを避け、販賣業者に公定價格遵守を指導し、特に銃後關係で實踐すべき事柄を主眼に置き、經濟戰を强調することに成つた

特別補給金は
歳入の缺陷に充當
戸數割減額に至らず

既報、平市の特別補給金一万三千五百七十二圓の使途について去る二日縣地方課馬場屬が來平市の財政狀態を聽取して指導するところあつたが、平市十三年度歳入に見込んでゐる土地賃拂代一万八千圓は鎌田遊廓内の市有地であつて公娼廢止問題などから遊廓の景氣頗る惡く、營業者は何れも四苦八苦の態で、當業者間の土地買收は殆んど望み無であるから從つて本年度の歳入に大缺陷を免れず、財政調整補給金は市民の負擔を輕減することが目的であつて戸數割の輕減が絶對的でないから、一万三千余圓の補給金は大部分土地賃拂代の歳入缺陷を補ふ方針に成つた

右について市財務課の山野遂市稅係主任は語る

補給金は原則として稅金の輕減を圖ることが目的であるが他に財源の無い場合、結局戸數割の增額を圖ることに成るのだから、歳入の缺陷を補ふことは間接的に戸數割を減ずると同じ意義を有することになる、今度の特別補給金の使途は決定してゐないが、多分土地賃拂代を補塡して財政を調整することに成ると思ふ

三富君戰傷死

内郷村出身兩角部隊上等兵三富竹造君は十一月三十日若松陸軍病院で戰傷死をとげた旨原隊から發表された

聲なき凱旋

勿來町出身前田部隊伍長大友定一、上遠野村出身同蛭田浩兩君の英靈は五日午後懷かしの原隊に無言の凱旋をする

銃後運動協議

高久村では九日午後一時から同村小學校で愛婦、國婦その他各種團体聯合幹部會を開き銃後運動その他を協議、縣から社會課松田重次氏が臨席する

斷…然…縣…下…一
石城郡十二年度の生産高
前年度より七百萬圓增加

縣統計課で調査中の十二年度縣下主要生産物統計はこの程纏つたが、それによると石城郡は五千八十六萬七千二百九十九圓で第一位を占め、平市は二百五十二万五千八百六十八圓で四市中最下位である、石城郡下の生産高は十二年度からは平市が分離したにも拘らず十一年度に比較して實に七百七十九萬七千二百八十六圓の增加となつてゐる、これは主として鑛産物、水産物等の增産によるものである

永山德一氏
札所巡り發願

川前村の素封家永山德一氏は皇軍の武運長久を祈願するため石城觀光會發行〝觀光石城案内〟に依る磐城三十三番觀音堂札所巡りを願望し、今五日朝平市北目町普門寺境内にある第一番〝北目觀音堂〟から巡禮參拜に出た

交通の發達から社會的に忘られてゐる三十三番觀音堂札所巡りは、心身鍛練の上から見るも時宜に適した信仰で一般に奬勵されてゐる

宮川浚渫作業
部落民勤勞奉仕

内郷村宮地内を流れる宮川は川底高く降雨の度毎に河水氾濫し被害少くないので同部落民及び磐炭從業員千五百名が五日早朝から出動浚渫奉仕作業を行つた

新檢事八日着任

平區新任檢事武田正二氏は八日午後二時五十分着磐越線で着任する

磐崎納稅表彰式

磐崎村の納稅表彰式は四日午前十時から同村小學校で擧行

一、口腔外科
一、レントゲン科
中野齒科
平市田町（電五〇九）
院長　中野惠次

全部賣切れ申候
平局の豆債券賣出し
午前中早くも閉店

平局の小額貯蓄債券は今五日から賣出しを開始したが額面七圓五十錢のものが五圓、額面十五圓が十圓で買へるといふ大衆向なところから人氣が沸いて、けさ開廳と同時になだれ込んだ希望者で午前中早くも五圓券三百六十枚、十圓券百枚（合計三千三百圓の割當てが一枚殘らず賣切れとなつてしまつた、この豆債券賣出し期間は來る二十日まででなので局では早速仙臺の本局へ追加割當てを申請したが一枚も殘つてないといふので結局今回の賣出しはけふ一日でおしまひといふわけである

恤兵部獻金

市内一丁目では區及び青年團で回收した廢品賣却代、六圓五十錢を陸軍恤兵部へと五日市役所へ寄託した

丹後澤使用權の
繼續承認を陳情
八田氏から市役所へ

平市の丹後澤は第二十四區に管理を委託され同二十四區から更に八田與市氏さんに轉貸契約が結ばれてゐるが、最近この丹後澤を二十四區から市役所に返還され、從つて區と個人との池沼使用契約も解消するものと噂されてゐるため、丹後澤の遊覽地化には相當投資し努力を拂つてゐる當の八田さんは狼狽を極め實情を具申万一管理を市へ返還されても現在同樣池沼上の使用權を繼續是認するやう五日青沼市長宛左の如き陳情書を提出した

丹後澤池沼の水面使用權は、昭和九年三月二十五日から同十四年三月二十四日まで第二十四區長と契約を締結し、現在まで周圍を開拓清掃に努め遊覽ボートを備へるなど面目を一新、市民にとつて唯一の遊覽地として逐年慰安を求めて遊ぶ者の數が增加してゐる最近區から市へ管理を返還するの噂を聽くが、若し市へ管理が移されても、從前の緣故に依つて引きつゞき池沼面の使用權を是認するやう懇願致します

新設產組指導

縣經濟更生課では石城郡下の新設產業組合に對し左の日割で實施指導を行ふ

▲十一日上遠野▲十二日入遠野▲十三日豐間、澤渡

銃後悲話の主
小川君近く歸還

平市南町出身の名譽の負傷兵小川榮作君は近く歸還することに成つたが妻女きくさんが目下病院にあつて眼疾を治療し、右腕に負傷した榮作君は自宅へ歸つても食事にさへ不自由な身体なため當分助川町の本社島田君實家へ身を寄せることに成つた、尙當時帝大病院から島田家で預つてゐた赤ん坊は市内仲間町のきくさんの實姉が引きとり養育中で、青木區長さん等の骨折で市銃後會も同家に對し十二月から十圓宛扶助することに決定した、また其後同家宛に贈られた同情金は左の如し

小川さん義捐金

一金三圓二十錢　二丁目　柏原かね
一金三圓五十錢　東京高輪　加藤家女中一同

赤井國婦分會
九日會旗樹立式

赤井國婦分會では同村々議古市喜三郎氏の寄附三十圓を以て會旗を新調したので來る九日午前九時から第二小學で樹立式を擧行する

平藥劑師會
藥局開設
今日から營業開始

平藥劑師會では簡易保險加入者の便宜を計り五日から市内田町石川商隣りに藥局を開設した

觀覽者千余名
若葉會展盛況裡に終る

縣立磐城高女主催第二回若葉會展覽會は既報の如く昨四日と今五日の二日間に亘つてマルトモホールに開催、會員の力作百余点の外藝術院會員結城素明氏の特別出品などあり入場者千余名に達した、入場者は左の如し

▽若葉會員、日本畫、四年關内義子、同宮川芳子、三年田村康子、同菊池常、二年大和田キヨ子、一年正木田鶴子、洋畫、四年堀喜代子、三年櫻庭美代子

▽入賞、日本畫、四年渡邊セキ子、同三森清子、三年關内滿壽子、酒井良子、同鯨井久、同宮本幹子、同江尻幹子、同菊地朝子、同櫻井信子、二年石和悅子、洋畫、四年廣澤登澤渡喜子、三年鯨岡久、二年三井敬子、同千葉怜子、同齋藤マキ子、同三澤チカ子、同堀眞喜子、同蛭田悅子、同桑原貞子、同松崎幸子、同富田俊子、一年吉田トシ子、同酒井道子、同松崎マチ

鮒釣大會

河北新報平販賣所主催の丹後澤鮒釣大會は十一日午前七時から開催、會費二十錢で辨食付、一等から五等まで賞品がある

天氣豫報

今晩は北東の風曇時雨模樣
明日は北東の風晴一時曇

久
釜屋商店
電九・九九番

債券・公債
兩替・金融
多田井質店
平市大工町　電五九一

三井タクシー
平市二丁目
電六八五番

飲んで治る腫物の妙藥
八方散
水野藥局
平市一丁目・電六九九

防空訓練講評【三】

本田平警察署長

三、防護監視の狀況―畧―

四、燒夷彈の消火法に就て

燒夷彈の消火に就ては燃燒中の燒夷彈に注水しましても効果が無いのでありまして其の附近に注水して延燒を防止することにあるのであります、それで燒夷彈が盛んに火花を散らして居る時には先づ濡莚か布團のやうなものを上から覆はせて其の上に注水するのが効果的と言はれて居ります又バケツ隊の活動に就ても附近に大きい貯水池又は水堀等がありまして燒夷彈の落下場所が活動の自由を妨げない樣な廣い場所でありますならば防空擔任者各自が其の力の限りを盡して自由に消火に努め得らるゝのでありますが、落下場所が狹隘であつたり貯水桶が小さかつた樣な場合は矢張り手送式に依るのが適當と思はれますので各場所に應じ得るやうな種々の方法を研究訓練する必要があります

手送り式に依りましても熟練すれば一分間に三十數個のバケツ水を注水し得る樣になります

五、警報傳達の訓練に就て

警報の傳達は前數回の訓練に依りまして迅速確實に實施せられ概ね良好でありますが一般住民に對しても音響信號の設備のない部落に於ては速かに警鐘等を設備する要があると思はれます

六、燈火管制の徹底方に就て

普通屋内燈に就ては戶口調査的に各戶に就て懇切叮寧な調査と指導を致しまして模範的な管制を爲したる者には模範管制として一般に參觀せしめ又適當なる管制を爲したる者には合格證を與へまして一戶も不合格者を出さぬ樣計畫を致しました結果大体に於て良好な成績を收め得たものと認めますが次の樣な不注意のものがありましたので將來充分徹底せしむるの要があります

（1）深夜又は夜明け方遮光具の設備のない電燈を點じて作業を爲すもの

（2）隱蔽材料の幅狹き爲め上下左右より若干漏光する者

（3）隱蔽材料の着脫に手數を要するを以て晝間暗きを忍びて若干の隱蔽をその儘になしておくもの

一日一言

野澤武藏

事は少し舊聞に屬するが去る十一月二十二日、平第三小學校庭に於て〝家庭防空群〟の結成式を擧行した際、宮城遙拜の號令を受けるや、恐れ多い事柄であるが、參集者の間に大きい動搖が起き『どつちだべい』『どつちだべい』と左右に方向をとるものが多數あつて、醜体を演じた

◇

當日參集した家庭防空群は市内全戶から集つて居り、中には小學校の科程も、敎育も受けてゐないものがあつたかも知れない而し、

天皇陛下のおはす皇居が、平地方にあつては南西に面してゐる位は、市民として常識的にも知つて置きたいものである、當日他からの來會者が無かつたから幸ひであつたが宮城の方向が判らない者の多かつたなど市民の恥辱である

◇

各中小學校には御眞影を奉安して朝夕禮拜、兒童や生徒に敬虔の念を抱かしめてゐることは、國民思想の涵養上誠に喜ばしいことである、然るに一般市民中にはこれ等生徒の登退校に際し奉安殿に向つて最敬禮することを見聞しながら、自らが學校に安置する奉安殿の前を通る際、帽子どころか見向きもせず、素知らぬ顏で通り過ぎるものゝ多いのは一驚を喫する、中には市民の選良たる市會議員樣にも斯ふした常識に缺けたるもののあるは遺憾に堪へない

◇

大人が奉安殿の前を素通りするを見て、小學生は不思議の感を抱き、勉强するものゝみに課せられた〝禮拜〟と疑問を有つやうになりはしないか？斯くては純眞な兒童に及ぼす思想上の影響頗る大であつて、國民精神作興を强く叫ばれてゐる今日、先づ親父の再敎育を行ふべきであらう

◇

吾々國民が宮城二重橋の前に立つたとき、尊嚴に打たれて自然頭の下るのを覺える、恐らく陛下の赤子たるもの何人も同じ心ではあるまいか、鄕にあつては宮城二重橋前に立つた氣持ちで、學校の奉安殿に最敬禮を忘れぬやう、苦言が實行されることを希んで止まない

新車の御知らせ

非常時國策に副ひ今般豪華なタイプご素適な乘心地ごを備へた新型純國產車一九三八年式トヨタ號を購入致しました、是非御試乘の上御批判を願ひます

四倉町字仲町
新妻タクシー
電話一六〇番

尙トラックの御用命も電話一六〇番へ

（仙）の乾やなぎ

其他鰹節、鰹鹽辛、いか鹽辛

平市土橋
（仙）鈴藏魚店
電話六六二番

吉田眼科醫院
平市紺屋町【電話六八番】

新文具御案内
マルトモ書店入荷品

進物用
組合せ文房具

賣價（A…一・四〇　B…一・七〇　C…一・六〇　D…二・〇〇　E…・四〇）

御子樣のきつと喜ぶお品です組合せ嚴選、内容實質的見るからに美麗な箱入リボン止めです

昭和拾四年度
當用日記　ポケツト日記
婦人日記　學生日記
家計簿等々　數十種
内閣印刷局發行職員手帳…四〇
附錄内容が有効適切で大評判です

中古各種レール鐵管
礦山用機械・機具類
二大製鐵會社特約店
海軍工廠御用達
賣買と仲介

K.S
合資會社　平銅鐵機械商會
代表社員　井尻七三郎
平市鍛治町九【電話五二二番】

御買上品は精々御安く納品致します
御拂下げ品は精々高價に買受けます

醬油と味噌

平市古鍛治町
鹽屋
電話（營業部專用一〇番／一般用（長）二七番）
振替東京一九七五五番

明治生命　磐城代理店　山崎與三郎

食事
喫茶
酒場

イワキサロン

男給の店
平・田町
（電―三五二）

三百年の歷史を有する
家傳靈藥
相馬ハンサキ
消食散（一名かげの藥）

代理店
丸龜商店
平市大町　電話一三三番

昭和タクシー
平驛前
電話　三四三（サシミ）　三四〇番

内臓外科
エツキス光線
產婦人科

院長　安齋徹
醫學士　黑澤廣

平市田町【電話四五七番】

入院隨意
安齋醫院

耳鼻咽喉科
レントゲン科

醫學博士　高柳博明
平市驛前【電話三三六】

平市田町（電話五一三番）
高久病院

院長　高久忠
副院長　赤羽清
藥局長　佐竹菊雄

内科小兒科　外科花柳病科
耳鼻咽喉科

開業廣告

齒科　一般の診療

診療科目
齒槽膿漏科
口腔外科
補綴科
繼續架工科
齒列矯正
小兒齒科

診療時間
午前八時ヨリ
午後九時迄

鈴木齒科醫院
鈴木一男
平市停車場通り
（世界舘前）